

漁獲量の増大を目指しサクラマス稚魚 6万尾放流 ～サクラマス稚魚放流式～



関係者による稚魚放流

6月14日(木)、村水産振興推進協議会(会長:越善靖夫村長)主催により、老部川内水面保護水域において、サクラマス稚魚放流式が行われ、平均尾叉長6・1cm、体重3・0gの稚魚3万尾が村内漁業協同組合長、むつ水産事務所、東北・東京電力など関係者約50名の手により放流されました。

また、6月26日(火)に小老部川と野牛川へ計3万尾を放流しており、今期は合計で6万尾の放流を実施しました。



放流されたサクラマス稚魚



御神酒流しを行い、大漁祈願する越善村長

今年で21回目となるこの放流事業は、サクラマス漁獲量の増大を目的に行っている事業であり、村としても「つくり育てる漁業」の重要な魚種として、今後も資源の増大を図っていきたいと考えています。

約3.7トンのゴミを拾い集める ～尻屋崎清掃ボランティア～



越善村長も清掃活動に参加

6月30日(土)、尻屋崎の海岸でボランティアによる清掃活動が行われ、参加者は海岸に流れ着いた大量の漂着物の撤去作業に汗を流しました。

本州最北東端に位置する尻屋崎は、国定公園に指定され、また、下北ジオパークにおけるジオサイトの一つにもなっています。清掃活動は、尻屋崎の景観及び環境、海洋環境の保全のために村が行っているもので、今年で4回目を数えます。



様々な種類のゴミ

に流れ着きやすい地形で、ペットボトルや流木からドラム缶まで大小様々な漂着物が流れ着きます。

ボランティア参加者は、早朝にも関わらず、村民をはじめ、東北電力、東京電力ホールディングス、三菱マテリアルなどの企業や、商工会・観光関係者などの団体など約320名が海岸線約350メートルに渡って清掃活動を行い、約3・7トンものゴミを拾い集めました。

今後も、村一丸となって尻屋崎の景観、海洋環境を守り続けましょう。